

復活から発展へ「次世代に残そう稲倉の棚田」**活動の経緯**

「日本の棚田百選」認定を機に、荒廃が進んだ稲倉棚田を保全しようという機運が地域で高まり、「稲倉保全と活性化をすすめる会」が発足し、「稲倉の棚田保全委員会」へと発展した。平成27年度の保全委員会の組織改革以降、地域おこし協力隊制度の導入、信州大学・長野大学や上田市、地域企業との連携を経て【棚田の復活から発展へ・・・次世代に残そう稲倉の棚田】から、さらに歩みをすすめた『棚田のブランディング』へと地域活動をステップアップさせている。

活動の概要

獣害対策と五穀豊穡を祈願し松明を練り歩き【ししおどし】祭りを開催し、都市農村交流、地域の活性化を図る。



点火式



練り歩き 1

活動の成果、主な実績等

近年山林の荒廃が進み、いのしし・鹿などが頻繁に棚田を闊歩している。これらの対策として鳥獣ネット、山林と農地間を伐採・草刈し緩衝帯を設置する等様々な対策が急務であり、その一環で「ししおどし」祭りを実施した。

棚田の景観を阻害している周辺の竹林から竹150本を伐採し松明を作り、当日はコロナ禍で関東方面のオーナーが参加できないので長野県内のオーナー家族を中心に7組、地域住人、行政、JAが一体となり100程参加し盛大に行われた。全員参加で松明作りから、竹パンづくり、地元音楽家の演奏など皆様と交流を行った。宵闇迫り、来賓・次世代担い手代表により点火式をおこない、それぞれが大列なし「ししがみよ帰りませ・田のかみよ守りませ」と大声を出しながら、イノシシが山に帰り、田んぼの被害がない事を願う。締めくくりには五穀豊穡・鳥獣対策を祈願し、地元花火師により花火30発を打ち上げた。